

日光市公共施設適正化推進市民委員会会議録

| | | | |
|---|------------------------|--|------------|
| 件名 | 第三回市民委員会 | | |
| 日時 | 平成30年8月20日 18:00～19:30 | 作成日 | 2018年8月23日 |
| 場所 | 日光市役所 本庁舎4階 委員会室 | 記録者 | 管財課 斎藤 |
| 出席者 | | | |
| <日光市> 近藤行政経営部長 神保管財課長 星公共施設マネジメント推進室長 管財課公共施設マネジメント推進室職員 | | <市民委員会メンバー> (出席委員、アドバイザー一名簿別紙) (敬称略) | |
| 議事内容 | | | |
| <p>■配布資料 第三回市民委員会資料 資料1、検討資料1、検討資料2、 資料2</p> <p>■議事録</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ (委員長)</p> <p>「大変遅い時間からの会議という事で、皆さんお疲れのところご苦労さまです。本日は、皆さん新聞などで、藤原総合文化会館、日光総合会館が廃止、それから、今市文化会館が老朽化で改修か建替えかという報道がありました。このことを中心に皆さまには事前に送付された資料に基づきまして、本日は市からの説明を受け、ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。」</p> <p>3. 議 事</p> <p>○委員長</p> <p>「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。」</p> <p>(1) 文化会館等施設について</p> <p>事務局より、資料1、検討資料1、検討資料2 について説明。</p> <p>○委員長</p> <p>「ただいまの説明内容につきましてご質問、ご意見等がございましたらお願ひ致します。」</p> <p>○委員1</p> <p>「8月8日に新聞報道で、今説明を受けた内容が出ましたが、8月7日の市議会議員全員協議会でこの内容を説明しているという中で、議会の方から何か意見とか質問事項とかが出ましたでしょうか」</p> <p>○事務局</p> <p>「今後の具体的なスケジュールはどうなるのか。例えば平成32年に解体するといった場合には、いつまで使えるのかという質問がありました。当然32年に解体するという事になれば、31年度までは使用出来ますという回答をさせていただきました。</p> <p>あとは、今後予定されている地域説明会で、市の考え方を説明するという事になっているが、廃止するという方向性が出ている以上、市民の方々の意見を聞く余地がないのではないかと。説明というより説得になってしまうのではないかとという質問、意見がありました。</p> <p>また、廃止しないでほしいといったご意見が出た場合に市はどういう対応をするのかというご質問がありまして、それに対しては、市としてはこの度、庁内で検討した結果がようやくまとまったので、まずは議会に説明して、これから市民の方に報告する状況であるということ、どのような意見が出てくるのか予測がつかないので、出された意見を元に市としてどんなことが出来るのか対応を考えていきたいというお答えをしたところ。」</p> <p>○委員2</p> <p>「何点かありますが、まず1点、先程の説明にも出てきましたが、学校の吹奏楽の練習だけでは</p> | | | |

議事内容

なく、学校音楽祭というものがあって、日光市はもちろん、上都賀地区全体で行うような音楽祭もある。また、小中高のブラスバンド等含めて行う大会等もあって、そういった関係もあるので、ある程度スケジュールがはっきりした段階で、その年になってからでは遅い、前年度に予定を組むので、スケジュールを学校関係、あるいは文化祭も各地域でやっていると、文化祭は文化協会が主催で行っているの、そこに対して出品する人、演奏・演技する人等たくさんの方たちがいるので、それも早めに話をしてくれないとどうなるのかという話になるので、そういった説明の機会を設けて、先程地域の説明という話はあったが、廃止する方向と言うのは新聞報道等でもされているところなので、今後のスケジュールについての、関係利用団体等への説明というのは計画的に予定されているのか。

2点目として、成人式というのもそれぞれの地区で行われているがそういった行事もどうなっていくのか、教育祭という大きなイベント等もあるので、建物を改修するという場合に、工事をやっている期間中はどこか代替えの場所を確保するということなのだが、今までそれぞれの地区でやっていたものが、1か所でやるということになってくれば、代わりにやる場所をどんな風に考えていくのかという話が出ると、その辺をどのように考えているのか。

校長会の中で今回のスケジュールを含めた資料は、校長先生方に伝えてしまっているのか。あるいは、校長会に来ていただいて直接説明していただけるのか。演劇鑑賞にしろ、各種発表会にしろ、市全体のものも含め、小中高全体も含め色々あるので、その辺説明していただく機会を設けていただければ、それとも、私の方から校長会の中で伝えて良いのか確認したい。」

○事務局

「今後の施設を廃止していくスケジュールの関係なのですが、突然言われても無理な話だと思います。まず文化会館等を使用している利用者の内訳として、大きく分けて、純粋に市民の方が使っているものと、行政サイドが主導となってイベント等で使っているものとに分けられると思う。内容を見ると行政サイドが主導となって学校関係であるとか、市役所関係が主導となって使っている様々なイベントがかなり、半分以上を占めているので、そこは市の方から関係機関を通して方針をお話ししながら、実際こういった機会です、今後その代替えをどうやっていくのか、または内容によっては、施設があったからやっていたが、催し物自体を続けるかどうかということの検討も含めて、していく一つの機会かとは思っているところなので、行政機関を通してやっていたものについては、今後速やかなタイミングで、具体的な時期等については、この先の地域説明会を行った上で少しスケジュール等は変わる可能性もありますが、方向性としては、ほぼこんな形でまとまったということは、ご説明したような内容で検討は進めていただくというところで認識していただくような形をとりたいと考えています。

また、市民の方が基本的に使用料を払って開催しているようなイベントにつきましては、早急に方向性が決まれば、31年度なら31年度中を使いながら廃止についてのアナウンスを合わせてしていくというような形で、突然廃止ですよということがないように時間をとって説明はしていきたいと思っている。なるべくそういった市民の方の不利益になるような情報も隠すことなく開示していくことで、円滑に進むようには考えているところです。

文化会館の方向性についての話は校長会の中でお話ししていただくにしても、具体的な取組とかそういったものは別途改めてお話しなり、通知なりそういう機会を設ける必要があると考えています。」

○委員 1

「是非そういった機会を設けていただきたい。音楽祭関係の担当の校長先生もいらっしゃるし、出来れば全体で聞いた方が良い。」

○事務局

「補足ですが、資料1でお示したスケジュールというのは、先程事務局より説明したように、あくまでも全て円滑に進んだ場合の最短でということなので、ある程度のスケジュールが見えてきた段階でそういった校長会も含めてそういった然るべき場所で説明する機会をいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。」

議事内容

○委員 1

「廃止する年に言われても、前年度に行事を決める関係で困ってしまうので。もう一点になってしまうのですが、現状の文化会館にしても駐車場が問題になってきているのが話に聞こえてきているかと思うのですが、駐車場なんかについては、この検討の中に入っているのでしょうか」

○事務局

「そちらにつきましても、縮小して建替えとなった場合、今の今市文化会館と同じ敷地を基本に考えた場合に、規模を多少小さくしますと、その分駐車場のスペースが広がるとかそういったことも出てくるかと思えますので、全体的な整備の中で、建替えにしても改修にしても、そういった中で考えていきたいと考えております。」

○委員 1

「現状であれば、日光と藤原がなくなると、それが集約される場合がありますよね。それを考えると駐車場は別々にあったものが集約されるとなると、大きな問題になると思う。」

○事務局

「あとは、3つの文化会館で行っていたものがまとまるといってもキャパ的には考えられないので、その客席数に見合った台数を確保できる方策を検討していきたいと考えています。」

○委員 2

「地域説明というのは、各地区で説明会を設けるのか」

○事務局

「日光と藤原各地域で1か所ずつ行う。」

○委員 3

「先程規模を縮小するというお話しがありましたけれども、今想定しているのはどの位の規模で考えているのか。検討資料にある利用件数というのは、1年間の利用件数ということで理解して良いのか」

○事務局

「この資料にあります利用件数については、H23年からH27までの5年間の平均をとって、1年間というデータになっています。直近で新しいデータですと、平成29年度の利用状況を参考にまとめているんですが、例えば1,000人以上ですと今市文化会館が10件、日光総合会館ですと2件、藤原総合文化会館が4件。それから400人以上1,000人未満については、今市が31件、日光が10件、藤原が6件。また400人未満になりますと、今市が120件、日光が125件、藤原が50件ということで、傾向としましては、年度で大きな差はなく推移しているというようなデータはもっています。」

ご質問の何人規模を想定しているのかということなのですが、平成29年度に日光市と類似規模の自治体にこういった文化会館施設の整備状況について調査をしたところで、自治体の考え方それぞれということもあるのですが、やはり利用状況に合わせてやっていくということを見ますと、400~500人程度の規模であれば、現状の利用状況をカバーできる施設であると考えの自治体もかなりの数いる。これまでも1000人規模程度で施設を造っている自治体も多いんですが、引き続き1000人規模で運営していくという自治体もあるし、そこは一概に決まった基準的なものはないのですが、後は考え方ということで、この平成30年度以降のところ、より検討を練っていくところと捉えているところです。」

○委員 3

「500人という数字が出たんですけど、件数は少ないにしても1000人以上の規模の開催が何件かある訳ですから、その辺のところの採算とか色々あると思うのだが、大きなイベントがやりたい時にどうなのか。3つが集約された時に、規模として少ないのかなと思いますけど、市の方で

議事内容

ランニングコストを算定されていると思うので、その辺の収支のデータ等で500人の方が良いという事だったのか。私が以前聞いた話だと、有名アーティストなんかだと1500人の観客席がないと採算が取れないので、有名なアーティストの方はちょっと開催が出来ないという事は聞いた事があるので、世界の日光なので、日光と言うブランドがあれば、有名な方もコンサートとか大きなイベントに来たいという方もいらっしゃるのかなと思うのですが、1500人規模は想定にないということですか。」

○事務局

「確かに今のお話のとおり、著名な方が何かをやるとなると、キャパの問題で、ある程度集客数がないと出来ないであるとか、施設の音響の問題とか、そういったところで、本格的なイベントに向いているのかということもある訳ですが、それが、年に何度あるのかということとか、その辺は良く比較した上で検討していくということが公共施設マネジメントの中では重要などころかなと捉えています。365日の内一度あるかないかを検討するものなのか、主だったニーズとして利用されている内容を選択していくのがベストなのかということでは、良く検討していかなければならない点かなとは考えています。」

○委員

「人口も減っていくので、大きな施設はいらないというのは勿論納得できるのだが、1000人規模の集まりが出来ないのはどうなのかなと思う。あと、先程の駐車場の問題もあるので、正直今の今市文化会館で大きなイベント等ありますと、駐車場が不足するという話は聞いていますので、そういった大きなイベントをやる時に駐車場が足りないという状況も解消できることも必要にはなる。」

○事務局

「特化した形で色分けをするということで、例えば規模的には500人600人程度に小さくしたとして、その分音楽的な専門性の高い施設にすることで、施設のポテンシャルを高めるという形やまた、内容については500人規模しか入れないけれども、1000人は一度には出来ないけれども、2回開催すること等の運用面で工夫する等、様々な手法が全国でもやられているところもありますので、日光市の身の丈に合った内容で、必要などころで特化した内容で色分けするとか、様々なことを検討した上で、今年中には方向性を決めたいと思っています。」

○委員3

「その辺の収支はシュミレーション出来ているのでしょうか。500人規模だとランニングコスト含めてある程度収支がとれるとか。正直500人と1000人でランニングコストが変わるのか私もわからないのですが、その辺の規模に対する収支のバランスシートなんかも資料として出していただければ。」

○事務局

「説明にもありましたとおり、当然市単独でホール会館機能だけで運営していくのか、民間活力、PPP、PFI等を導入した上で、例えば商業施設との複合化であるとか、利用料金を取れる市の行政施設と文化会館機能抱き合わせでやるとかという形で、なるべくその後の施設管理部分のコストであるとか収益的などころも見定めた上で、検討していきたいとは考えています。」

○委員1

「それに関して、アーティストが講演できるかどうかということもあるのですが、自分が県に出向していた時に、全国大会、関東大会等があった時に必ず言われるのが、先程の民間の話ではないですけれども、旅館とかホテルがあって、それが対応出来るというのは、県内では那須か日光しかないんだということで、必ず大会を持ってこられることが多い。それを考えると、それに対応できなくなれば、日光は全面的に引くことになるので、せっかく対応できる旅館、ホテルがあるのに、全体会場から引くということにもなる恐れがあるので、そこら辺はよく検討していただいた方が良いのかなと思う。

県内で言うと那須か日光が受け入れ場所という認識があるので、需要はあるけど、それに見合う

議事内容

施設がないと、ホテル旅館をせっかく利用してもらおう機会を失うということにもなり兼ねないので、そこはよく検討していただけると良いなと話を聞きながら思いました。」

○委員 4

「今、他の委員の皆さんからも色々意見が出たんですけれども、新聞報道でもあったんですけど、地元自治会や関係団体への説明を実施する予定ということなんですが。どういう規模でやるのか、と言うのはなぜそんなことを言うのかと言うと。やはり、現状分析をしっかりとしないと、対策が出てこない。これはマネジメントの鉄則だと思うんですが、この現状分析が曖昧だと対策が出てこないという形になると思います。日光の関係見ますと、稼働率が低いんですけれども、住民からするとなくなってしまうという不安の方が大きいんですよ。なんで無くなるのかという。例えば、今の日光行政センターは50人しか入れない。大きなぶち抜きの部屋がなくなってしまったので、50人の会議しか出来ない。そうすると、今の総合会館を耐震がI S値6.5なんですけど、ホールの方が6.5なのか、会議室の方が100人以上は入れますので、そこは現況として使えるのかどうかという検討が出てくるのだと思う。色んな検討の仕方が出てくると思うので、説明会では色んな形の方面の人から意見を聞いて、例えば現状分析では、廃止か統合か反対か、極端なことを言えば賛成か反対かディベートすれば、色んな問題が出てくると思う。その問題の裏返しは、対策になってくると思うので、いかにみんなに説明するか。悪い事も良い事も説明するか。これが非常にポイントになってくると思いますので、その辺をしっかりとやっていただければと思います。

後は、ステップ2の方の関係なんですけれども、1案、2案、3案とありますけれども、ここに文字でメリット、デメリットと書いてありますが、なかなか判断しづらい。各データ調べてしっかりやってもらってますけれども、評価指標にマトリックスがありますが、そのマトリックスで評価していただければ、縦軸横軸でそれで点数をつけてやってもらえれば、どれが良いのか、ベストなのか、次に良いのはどの案かというのを絞り込んでいってまたそれを細かい項目で、やっていくと非常に評価しやすい。数字的に出てくるので、説得力が出てくるし、住民に対しても納得しやすいものが出てくるのではないかと思いますので、細かい意見をどうやって積み上げていくか、それを次にどういう風に反映していくのか。これを是非展望があればお聞きしたい。」

○委員 5

「藤原文化会館のホールの利用は少ないんですけれども、会議室の方は結構稼働はしていると思う。地域の皆さん利用されているので、それが全部なくなるとなると、仰っていたように、いっぱい意見を吸い上げていただいて、造っていただければと思っています。」

○委員 4

「民間施設を借りるというのを見させていただきましたが、ホテルを借りたくても、旧日光地域には利用できるホテルがありません。鬼怒川にはありますけれども、日光にはないということで、では、今の旧今市に持ってくるのであれば、どうすれば良いのか。日光総合会館に行くのに車に乗って行くのは一緒です。5分10分余計に乗って今市に来るのか。例えば日光有料道路の間を無料化してしまう。そうすれば、日光から今市にくるにしてもすぐに来られる、そういう利用の方法もいろんな形であると思うので。今、例としてあげましたけれども、そんなことも色んなアイデアを持ってくる人が多分色んな方がいらっしゃると思います。そういうことを是非とも吸い上げていただきたい。」

○委員長

「私の方からも少しよろしいでしょうか。先程来た時に事務局の方とも話をしたんですが、地元の方は今まであったものを無くすと言うこと自体賛成と言う人はいないと思うんですよ。例えば成人式ですよ、藤原は藤原文化会館でやっている、今市も文化会館ですよ。栗山は行政センターを使っていますが。そういった事業も集約できる可能性もありますが、地元の方の考えは、先程のような考えなのだと思います。ただ、代表する議員の方々が市議会で話をしてこういった内容にしたということは、お金がかかるという話が一番だと思いますが、議員の方々がそういったところで判断をしたということだと。これからの日光市の財政とこれだけの建物を造ってどうやって維持管理していくか、では、市民税をいっぱい上げるのかということも考えて議会もこ

議事内容

ういう方法で皆さんが納得できるような方法で説明してということだと思いますので、まあ、各地区で自治会を主体にしてそういった説明会があった折には市長さんも同席するかわかりませんが、そういった場で皆さんの率直な一人一人の意見を述べて出来るだけ汲み取ってもらえれば。

ここで、大変貴重な意見をたくさんいただきましたので、事務局でも整理していただければと思います。各委員から他にないようでしたら、西尾先生からお願いいたします。」

○西尾アドバイザー

「皆さんのお話を聞いていまして、仰るとおりだと思います。今回廃止という方向性が先に出てしまったのかなと思うのですが、そこは、なぜ廃止なのかということのを丁寧にこれからでも説明していく必要があるのかと思います。

なぜ、廃止しなければいけないのかというところは、皆さんのご意見に出ていたとおりで、財政的な問題が大きいのもう一つ安全の問題もあると思います。今回、例えば今市文化会館は耐震化の方は実施済みということですが、耐震化をすることと老朽化の対策をするのは別ものということになります。耐震化というのは、あくまでも地震があった時に持ちこたえるようにするというだけで、実際古くなったものをそれで直すということではないので、耐震化とは別に施設自体が古くなったんだという状況があるということです。いずれも築40年以上も経ってしまっていて、私も施設それぞれ見せていただきましたけれども、見た感じですと、かなり築年数以上に危ないなという感じがしましたので、それは、やはり、建物を利用している市民の安全を確保するために早く手をつけなければならないという事情があるということがあるかと思っています。先程、議論の中で類似する機能比べた時どうなのかという、この視点が凄く大事だと思います。中の機能だけで見て行くと、どうしても今まで使っていたんだから必要だということになりがちですが、では、少し視点を引いて他の視点で見た場合どうなのか。今市の場合は、施設の維持管理にどの位お金を使っているのかということと比較してみるとかなり違いが出てくると思う。そういったところを見せて行くということが、市民の理解を得るためには有効ではないかと思っています。

逆に早く手をつけることによって、どれだけ状況が改善されるかという良い面もを見せて行くということも必要だと思います。今日の資料の中で、早く手をつければそれだけ削減効果が高くなるという説明がありましたけれども、どれ位効果があるかと考えると、日光総合会館は、この資料ですと、1年あたり8500万円、藤原は7000万円かかっている訳ですから、単純にこの部分だけ見ても、1億5千万以上は早く手を付けることによって、財源が余って、それを違うことに使えるという訳ですから。そういったものを見せて行きながら、説明していくということも有効ではないかなと思います。

それで、出来るだけやらなければいけないことはやらなければいけないということはあるのですが、それをやることによって、もっと良い日光の未来に向かって進んでいく可能性があるんだというポジティブな面を出していくことも大事なかなと思います。そういう意味では、民間活力の活用というところで、市民の中にも色んな意見があるんだから聞いた方が良いという意見がありましたけれども、正にその通りだと思っていて、最近サウンディングという手法がありまして、行政でこういったことをやっていくという計画を決めてしまうのではなくて、計画を検討していく段階で、色んな民間企業の意見を聞きながら、民間だったらこんなことが出来るということ行政の検討の中に取り入れていって、計画を作るという手法がありますので、出来るだけ早い段階から民間の意見を聞けると、先程1500人の規模があれば、大きなアーティストが呼べるんじゃないかという、それで儲けられる可能性があるという話がありましたけれども、これは一つの視点と言いますか、それが成り立つかどうかと言うのは、なかなか専門家じゃないとわからないかと思うので、民間の人に出来るだけ早く入ってもらって、本当にこういうやり方で成り立つのか、あるいはもっと違う色んなアイデアで成り立つ方法というのを提案してくれるかもしれませんので、行政だけで考えるという、特に採算というところは、なかなか行政では苦手な部分になりますので、出来るだけ早く民間とか、市民とどうして行ったら採算とれる施設が出来るのかというところを早めに対話をしていくことがポイントになるのかなと思いました。

あと、細かい話になるのですが、コストを比較するという部分、こういうデータを出来るだけ市民と共有した方が良いということですね。行政だけで持っているのではなくて、全てデータ

議事内容

を出して行って、総合会館機能として維持管理にこれだけかかっている、500人規模だったらこれだけで済むという、いくらかかるのかと言うデータをきちんと市民と共有していくということが大事だと思うのですが、その時に副委員長も仰っていましたけれども、分析をきちんとしておかないと、きちんとした対策がとれないというのは正に仰るとおりで、コストの出し方というのが、妥当かどうかいうところもきちんと検証していく必要があると思っています。私も行政で仕事をした経験があった中で、その時の悩みだったんですけども、40年間のコストの比較という、40年間にかかるお金だけを比較するんですけども、でも、実際は、早く建替えるか、遅く建替えるかで、建替え費用が40年の中に入るか入らないかというところが違ってくるのですけれど、会計の世界では、発生主義という考え方があって、建てた時にかかった費用というのは、建てた年度だけに計上するのではなくて、例えば50年使う施設だったら、これを50年で割って、1年当たりでいくらという計算をすると、1年当たりの経費が平準化されて、いくらかかるかということが40年で切っても見えてくる。そういうコストの積み方をしないと、いつ建替えとか大規模な負担がこの40年に入るか入らないかで、大きくコストの見え方が違うと思うので。発生主義にして、公平な基準でコストが比較できるようにしておかないと、単純に早く建替えるのが、日光市ではたくさんコストがかかっているということになりますので、そういったところをちょっと工夫しておく、より現実なコストになることと、それに対する対応のところに繋がるかと思えます。」

○委員長

「ありがとうございました。他に委員の皆さんから無いようですので、文化会館等施設については以上でよろしいですか」

○委員3

「一点、ランニングコストのいくら位という算出の仕方がというご指摘が西尾先生の方からご指摘があったんですけども、私、建築の関係の仕事をしているので、ランニングコストで言いますと、今、市の方でも、維持管理の方をいかに集約するかということはやられているんだとは思いますが、以前の市の方向性として、一つの建物に対して、今回は耐震だけ、今回は空調だけとか凄くロスのある改修をされていた。民間の場合絶対そういうことはやらない。

その度に、調査を何度もして、一つの建物に対して、何回も調査をすることになる。それが凄くロスになっているので、ランニングコストをそのやり方で出されると凄くロスが出るやり方だと思うので、その辺は民間の方が、ある程度同じ調査は絶対に出しません。私がたまたま建物調査に行った時に、今回別のところで検査をやっているということで、同じような建物調査をまた業務としてやるのが凄く無駄だと思ったことがいくつもありました。なので、その辺をある程度削減していくと、ランニングコストももう少し、日光市は公共施設が凄く数がありますので、その辺を削減しただけでも、ある程度まとまったお金の削減が出来ると思いますので、一概にランニングコストがかかると言われても、その無駄のあるランニングコストを出されたのでは、比較がしにくいかなと思います。」

○委員長

「その辺は一つ参考にしていただいて、役所は民間のようにいかないところもあるかもしれませんが、民間から見れば、そういったところがあるということも、その辺は今後よく見て行くようにしましょう。それでは、よろしいでしょうか。」

では、次に(2)平成29年度～平成30年度の主な取組内容につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。」

- (2) 平成29年度～平成30年度の主な取組内容について
事務局より、資料2を用いて説明

○委員長

「事務局からの説明が終わりましたので、只今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。」

議事内容

色々な取組についての説明がありましたけれども、せつかくの機会ですので、お一人ずつご意見をいただこうと思います。」

○委員 1

「来年入学してくる子供が日光市全体で500人しかいません。要するに予想以上に子供の数が減ってきているので、学校の適正配置を今進めて行かないと、やってもまだ人数減っちゃっているという状況も起きかねないので、気にしている校長先生や先生方もちゃんとしているので、地域の方々にきちんと説明して行って、理解を得ていただいて、速やかに進めていただいた方が学校の子供達にとっても幸せに繋がるので、是非進めていただければと思います。」

○委員 4

「説明いただいた様々な取組、学校統廃合に関してもとても必要なことだと思いますので、進めて行っていただければと思います。

藤原の文化会館のことなんですけれども、駅前の広場で非常に活発に色々なイベント等やっているんですが、今まで雨が降ったりすると、文化会館の方を使わせてもらってやっていたので、それが無くなってしまうというところなので、民間でそういった所もみてもらえれば、一つの案ですが、考えていただければと思います。」

○委員 3

「小中学校の適正配置に向けては、私、個人的な意見でざっくりばらんな言い方をしますと、やっとなかと思うところです。子供の数が減るというのは前からわかっている、今委員の方からもありましたが、予想以上に進んでいるということなので、市の方でもある程度何年先と言うのを見越して、早めに手を打たないと、先程の繰り返しになりますが、ランニングコスト等がかかってしまうのと、子供達にとっても、より多くの集団生活を学ぶということもあり、資料を見ますと33年度には一クラスの人数が2人ですかね。その人数で集団生活を学べるのかと言う問題も出てきますので、ある程度先を見越した計画を立てないと、子供達にとっても良くないし、市の財政にとっても余計なコストがかかってしまうので、これは早急に進めるべきと思います。

自分が住んでいる地区の学校でも私の子供が通っていた10年以上前から落合東小学校と落合西小学校の統廃合の話が出てまして、ただ、教育委員会の計画の中ではまだ統廃合の対象としてあがっていないようですが、10年前に落合東小で3クラスだったのが、今は1クラス、落合西小の生徒数は詳しくはわかりませんが、かなり少ないので、本当はこの計画にあがっても良いのではないかと思うのですが、ここにあがらない内に、今仕事をさせていただいて、心苦しいんですが、落合西小でプールの整備をされたんです。プール何人使うのかなという疑問というか、なぜ落合東小のプールを交換で使えないのかなという気持ちで。私の子供が通っていた時一学年3クラスあって使っていたのが、今一クラスになったら、今かなりプールの利用は空いているんだと思うんですよ。そのプールをなぜ落合西小の子供達がバスで移動しても多分プールの改修にかかるお金よりもはるかにかからないで出来るんだと思います。その辺のところを市の方も検討して、先を見越してどうなっているのかなと思いながら聞いていました。民間を活用してやると言う事例は凄く良い事だと思います。」

○委員長

「栗山地域は、委員が仰ったように地域が分散していて、学校もたくさんありました。でも、栗山地区については、小中学校一つに統合して、湯西川はダム事業で大変立派な学校を造ったんですけど、全校生徒20数名ということで、私は栗山地域内の学校行事にその度に参加しているんです。文化祭、体育祭などそれぞれありまして、その際に学校の校長先生等と話をしますが、小さく統合してもらっても、先程、委員が言ったように、子供が数えるしかないんです。もう一回今度は藤原かどこかに大きな統合をしないと、小さく何回か統合しても意味がないと思うんです。子供も大勢の人の中で育ってくれば、人間関係とか体力も違うと思うんですよ。小さい人数だから先生も家庭教師みたいな形で指導してくれるので、勉強は出来るんですが、勉強が出来ても、社会に出た時に人間関係がなかなか難しい。先程委員が仰っていたように早く大勢の環境に慣らしていただいた方が子供のためにも良いと思います。栗山もいくつかあった学校が廃校になったんですが、栗山日向にある学校も跡地利用をどうするかということを経営の自治会長

議事内容

さん集めて再利用の話をしているのですが、それもなかなか良い案が浮かばないという感じです。

学校統廃合も小さい中でまとめるよりも、大きな中で進めていただきたい。」

○委員 3

「具体的な取組事項のお話があつて、良い方向で行っているのかなと思います。日光地域に限って言えば、野口小と所野小が日光小に統合されてということで、色んな話を私なんかも聞きますけれども、やはり、そこを卒業したお年寄は廃校は嫌だという感情論なんだと思います、ところが、今学校に通わせている親からすると、集団生活でたくさんの生徒がいるところで子供は育った方が良いよねというのが私が聞いている範囲の大勢の意見なんですよ。

反対するのはお年寄りの感情論なのかなと私は見えていますので、学校統廃合の話は良い方向に進んでいるのかなと思います。

あと、日光地域でなぜ話が出てこないのか、清滝小と安良沢小ですね。この辺は状況としてはもっと深刻な状況だと思うので。早めに取り組んでいただければと思います。

清滝地区も昔は高齢者がポツポツ歩いていましたが、今は高齢者も歩いていません、そんな状況ですから、非常に厳しい状況が続いていると思います。

あと、未利用の土地利用関係で、先日日光地域の懇談会の中で観光客の駐車場問題とか、山内で渋滞が起きているということで、道路が混雑して、生活にも支障を来しているというような状況です。そこで、神橋から下のところに市営住宅が街中にあるのですが、いくつか空き家があつて、ポツポツと空いているというのがありまして、住んでいる人に出て行けとはなかなか言えないと思うのですが、そこを移転していただければ、かなりの面積が駐車場として確保できる。それを有料にすれば収入にもなる。現地で測って台数がどれ位とれるか、有料にすれば、無料にすれば何台取れるのかというのを検証してみました。結構な台数がとれます。そういったところで、他のところの課と色んな条件で意見を交換すれば、色んなところで収益があがるというような状況なので、こういったことも検討していただければと思っています。

最後に色んな形で民間を利用するという形で、昔で言えばゴミ収集車が市役所で全てやっていたのが、今は全部民間でやっている。役所でやるとコストがかかる、民間に委託すれば土曜日でも日曜日でもやるということで、極力民間でできるものについては民間に委託等をして、委託費等を出すという形でやるのが良いと思います。普通の会社ですと、昔は保養所として施設を持っていました、それが持ちこたえられないという形で、全部廃止してしまいました。従業員の福利厚生というところで、一般のホテル等と提携して、利用した人にポイント制の形で、会社から施設の利用料としてお金が出るというやり方、そういったやり方の方が施設を持たないで済みますから。そういうことも取組の中には出ていますから、是非ともそういった形で進めていただければと思います。」

○委員長

「それでは、総括ということで、西尾先生からお願いいたします。」

○西尾アドバイザー

「取組内容をお聞きして非常に進んだ取り組みだと思いました。全国的に見ても、日光市の取組というのは進んでいるということで注目されていると思うんですけど、実際にこういったことに取り組んでおられるということで、凄いなと思いました。

ただ、最初の学校の廃止の話については、皆さん仰っていたとおりで、私も外の人間として見た印象としては、特に中学校の数が多かったです。小学校の数が26校に対して中学校14校と言うのは、日光市の人口規模からすると、まあ地域が広いので、それはまた別の問題としてあるんですが、よく公共施設マネジメントの分野ですと、施設と機能を分けて考えましょう、まず機能を先に考えてそれにあつた施設を考えて行くという順番で施設ありきではなくて、機能から考えましょうということ言うのですが、学校とか、教育については、あまりそういうこと言わないで、まずは学校ありきから発想が入ってしまうので、今の中学校区14校分を全部残そうとすると、この栗山小中学校のようなところもかなり厳しいのかなと思います。平成33年には生徒2人しかいないという状況のなか、9年間ずっと2人だけかというと、それは子どもの教育環境としては、相応しくないだろうというのは明らかだと思いますので、ここで学習環境として、

議事内容

例えば1クラスあたり10人～30人程度が望ましいということがあるんだとすれば、では、それを確保するためにはどういう学校の配置になっていくのかという、望ましい学習環境というところを踏まえてから教育とか学校のあり方ということを考えて行くという、機能から施設へという考え方を入れ込むと、少しまた見え方が違ってくるのかなと思いました。

それから、未利用地・転用地の活用については、私も正にこういった手法で、最初はどれがいいだろうというものを出していったから利活用というところで、次の段階としては色んな常設型にしていくのも、民間から提案を受けつけられるという風にしていくのが望ましいかなと思っていますので、正にそういう風に進んでこられているので、素晴らしいなと思いましたが、これ、民間から提案を受けた時にその提案をどう取り扱っていくことについては何か手続き的なところは決まっていますか。」

○事務局

「提案内容をどう取り扱っていくかというところは引き続き検討するところではあると思っ

○西尾アドバイザー

「多分自分がした提案がその後どのように生かされていくのかということが、ある程度手続きとか制度として決まっていないと、民間側はなかなか出しづらいということがあると思いますので、そういったその受けた提案をどう扱っていくか、それが入札とかになった時にどういう風に有利になるのかというあたりを制度化というところを進めて行くといいかなと思いますし、あとは窓口ですね、どこが受付なのか、受付た窓口は例えば民間事業者と一緒に考えて行くという体制が出来ていると、より力が付いてくると思います。

PPPとかサウンディングについては、恐らく日光市として初めてという部分だと思しますので、多分不安で、出来るのかどうかということもあるかと思しますので、最初はモデル的にやってみて、やりながら、きちんと整備していくという考え方が良いかなと思いますので、ちょうど今回モデル事業として、建替えを含んだ事業が動いているので、この段階で出来るだけ早いタイミングで、モデル的な形で検討してみるのが良いのではないかと思います。

恐らくこれが最短のスケジュールとして示されていますけれども、もしこれで最短で動いているとすると、今年度中には方向性を決めて行くとしたら、もう間に合わないタイミングなので、本当にこれをやって行こうと思ったら、今年度とか来年度位から施行的やってみるという位のスケジュール感で臨んで行くのが良いのかなと思いました。」

○委員長

「西尾先生ありがとうございました。

他にご意見等もないようですので、(2)平成29年度～平成30年度の主な取組内容については以上といたします。今後もしこうした取組を進めて行っていただければと思います。

では、以上で本日用意された議題につきましては、終了とさせていただきます。進行につきましては事務局にお返しいたします。」

○事務局

「ありがとうございました。各委員の皆様、また西尾先生から貴重なご意見をいただきましたので、十分参考にさせていただきながら、進めていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。次第のその他の事項について、1件ご案内させていただきます。」

4. その他

・事務局より事務連絡。

「次会の会議ですが、来年の年明け、1月以降を考えておりますので、よろしくお願ひいたします。」

○事務局

「では以上を持ちまして第三回公共施設適正化推進市民委員会を終了させていただきます。」

以上

議事内容